

巻頭言

名古屋学芸大学健康・栄養研究所
所長 下方浩史

今年の冬は例年になく寒い日が続いています。さて、今年も健康・栄養研究所年報の第9号を無事に発刊することができました。本誌は名古屋学芸大学健康・栄養研究所の研究や実践活動の成果の発表の場であるとともに、その成果を広く社会に知っていただくために発刊を続けてきました。2009年から、本誌は医学中央雑誌データベースに定期刊行物として収録され、医中誌 Web でも検索できるようになっています。第9号では原著3編、報告3編の論文を掲載しています。

原著では「小学校5年生時と中学2年生時における家庭での『食事の楽しさ』と関連要因」、「職域健診における肥満の実態および栄養摂取状況の検討」、「職域健診における肥満に伴う病態および栄養摂取状況の経年変化の検討」と、食育と職域健診における肥満と栄養との関連について研究の成果を掲載することができました。

報告では、「障害者の総合支援を目的としたヘルシー弁当の開発」、研究所が開催した研修会、勉強会からの報告として「実務者のための栄養管理プロセス研修会（臨床栄養）」、「2016年度『食品安全マネジメントシステム研修会』実践報告」と、研究所の活動を紹介する論文を掲載できました。

現代社会において、老化の進行や生活習慣病は私たちの生活に大きな影響を与えています。高齢者の低栄養や、中年世代のさまざまな生活習慣病を予防し、治療していくためには栄養が最も重要です。さらに、栄養は生命活動を支える基本的な要素であるだけでなく、健康を守り、生活を豊かにし、文化や創造性にまでつながっていく要素です。栄養科学研究は、私たちの生活に密接に関わるものであり、その成果を応用していくことが重要だと思えます。本誌が少しずつでも栄養科学研究の進展に役立っていくことを願っています。